

緊急度判定プロトコル Ver.3

救急受診ガイド

(家庭自己判断)

総務省消防庁

はじめに

病院に行った方がいいのか、行くならば、救急車を呼んだ方がいいか、自分で病院やクリニックを受診した方がいいか、どれぐらい急いで受診した方がいいかなどについて判断することは、なかなかむずかしいものです。

この『救急受診ガイド』は、急な病気やけがをした際に「いつ病院を受診したらいいのか?」「救急車を呼んだ方がいいか?」と迷った時に、ご自身の判断の一助になることを目的に、『東京版救急受診ガイド』（日本救急医学会監修、東京都医師会救急委員会救急相談センター運用部会作成、東京消防庁編集・発行）をもとに、総務省消防庁の「緊急度判定体系に関する検討会」が作成したものです。

- 病院やクリニックに行った方がいいかどうか?
- 行くなら急いだほうがいいのか? 待てるのか?
- 救急車を呼んだ方がいいかどうか?

などで迷ったときは、ご利用ください。

● Ver.1 からの主な変更点

Ver.2 は、平成 29 年 3 月現在現在の医学的判断基準をもとに改訂されています。

計 26 のプロトコルを Ver.1 に追加し、全 59 のプロトコルを以て Ver.2 としています。20 の成人小児共通のプロトコル（眼科関連、上肢の問題、発疹、下痢、高血圧、眼の外傷、足首以下の問題、熱中症、下血、感冒、医薬品過量服用、構語障害、膣からの出血、便秘、体幹外傷、頸部痛・肩の痛み、排尿困難、アレルギー、咽頭痛、液体異物誤飲）と、6 つの小児に特化したプロトコル（啼泣、便の色の異常、鼻水・鼻づまり、便秘、喘息・喘息様症状、頭痛）を追加しています。また、プロトコル内の質問表現については適宜平易な表現に修正しました。

目 次

はじめに

家庭自己判断プロトコル (Ver.3) 症候一覧

緊急度 (きんきゅうど) って？	1
共通に確認する項目	2
家庭自己判断アルゴリズム	3

症候 1. 息が苦しい (成人)	4
症候 2. 呼吸がゼーゼーする (成人)	5
症候 3. ぜんそく発作 (成人)	6
症候 4. 動悸 (成人・小児)	7
症候 5. 意識がおかしい (成人)	8
症候 6. けいれん (成人)	9
症候 7. 頭痛 (成人)	10
症候 8. 胸が痛い (成人)	11
症候 9. 背中が痛い (成人)	12
症候 10. ろれつが回らない (成人)	13
症候 11. 腰痛 (成人)	14
症候 12. 風邪をひいた (成人)	15
症候 13. 発熱 (成人)	16
症候 14. 発疹 (成人)	17
症候 15. のどが痛い (成人)	18
症候 16. 腹痛 (成人)	19
症候 17. 便秘 (成人)	20
症候 18. 下痢 (成人)	21
症候 19. 吐き気・吐いた (成人)	22
症候 20. 吐血・下血・血便 (成人)	23
症候 21. 尿が出にくい (成人・小児)	24
症候 22. 膣からの出血 (成人)	25
症候 23. めまい・ふらつき (成人)	26
症候 24. しびれ (成人)	27
症候 25. 首が痛い・肩が痛い (成人)	28
症候 26. アレルギー (成人・小児)	29
症候 27. 高血圧 (成人)	30

症候 28. 眼科関連（成人・小児）	31
症候 29. 鼻のけが・鼻血（成人・小児）	32
症候 30. 口の中や歯の問題（成人・小児）	33
症候 31. 手や腕の問題（成人・小児）	34
症候 32. 足（太もものつけ根から足首）の問題（成人・小児）	35
症候 33. 足首から先の問題（成人・小児）	36
症候 34. 咬まれた・刺された（成人・小児）	37
症候 35. やけど（成人・小児）	39
症候 36. 頭のけが（成人）	40
症候 37. 眼のけが（成人・小児）	41
症候 38. 胸やおなかをぶつけた・胸やおなかに刺さった（成人・小児）	42
症候 39. 手足・顔面のけが（成人・小児）	43
症候 40. 何か固形物を飲み込んだ（成人・小児）	44
症候 41. 何か液体を飲んだ（成人・小児）	45
症候 42. 薬をたくさん飲んだ・間違った薬を飲んだ（成人・小児）	46
症候 43. 熱中症（成人・小児）	47
症候 44. 発熱（小児）	48
症候 45. けいれん（小児）	49
症候 46. せき（小児）	50
症候 47. 鼻水・鼻づまり（小児）	51
症候 48. ぜんそく発作（小児）	52
症候 49. 息が苦しい（小児）	53
症候 50. 発疹（小児）	54
症候 51. 吐き気・吐いた（小児）	55
症候 52. 下痢（小児）	56
症候 53. 腹痛（小児）	57
症候 54. 便秘（小児）	58
症候 55. 便の色の異常（小児）	59
症候 56. 耳痛・耳だれ（小児）	60
症候 57. 頭痛（小児）	61
症候 58. 泣き止まない（小児）	62
症候 59. 頭のけが・首のけが（小児）	63

家庭自己判断プロトコル (Ver. 3) 症候一覧

No	症候名	症状例
1	息が苦しい (成人)	「息が苦しい」「呼吸が苦しい」「息苦しい」「息が荒い」「肩で息をしている」「息ができない」など
2	呼吸がゼーゼーする (成人)	「ゼーゼーいっている」「ヒューヒューいっている」「息をするときに音がある」「痰がからんだような音がある」など
3	ぜんそく発作 (成人)	「喘息なんですが・・・」など
4	動悸 (成人)	「ドキキする」「動悸がする」「脈が速い」「脈がとぶ」など
5	意識がおかしい (成人)	「反応がない」「意識がないようだ」「変なことを言う」「うわごとを言っている」「いつもと様子が違う」など
6	けいれん (成人)	「ひきつけ」「てんかん」「ガタガタ震えている」「泡を吹いている」「白眼をむいている」など
7	頭痛 (成人)	「頭が重い」「後頭部が痛い」「頭痛がすると言って倒れた」など
8	胸が痛い (成人)	「胸が痛い」「胸が苦しい」など
9	背中が痛い (成人)	「背中が痛い」「背骨の具合が悪い」など
10	ろれつが回らない (成人)	「うまく声が出ない」「声がかれていない」「いつもと違う声でしゃべっている」「呂律が回らない」など
11	腰痛 (成人)	「腰が痛い」「ぎっくり腰」「腰痛」など
12	風邪をひいた (成人)	「風邪をひいた」「咳や痰が出る」「だるい」「インフルエンザかも・・・」など
13	発熱 (成人)	「熱が出た」「悪寒がする」「震えている」など
14	発疹 (成人)	「ブツブツ・発疹・湿疹・水ぶくれ・ジンマシンが出た」「皮膚が腫れた・かゆい・赤い」など
15	のどが痛い (成人)	「喉が痛い」「喉が変だ」「飲み込みにくい」など
16	腹痛 (成人)	「おなかが痛い」「みぞおちが痛い」「下腹が痛い」「脇腹が痛い」「お腹が張る」「足の付け根（鼠径部）が痛い」など
17	便秘 (成人)	「便が出ない」「便秘が続いている」など（便秘があるがどうしても便がない状況）
18	下痢 (成人)	「便がゆるい」「下した」など
19	吐き気・吐いた (成人)	「吐いた」「吐き気」など
20	吐血・下血・血便 (成人)	「吐血または下血した」「吐物または便に血が混じる」「便が黒い・赤い」など
21	尿が出にくい (成人・小児)	「尿が出にくい」「尿の回数が少ない」など
22	陰からの出血 (成人)	「不正出血がある」「性犯罪にあった」など
23	めまい・ふらつき (成人)	「ふらつく」「目が回る」「めまいがする」など
24	しびれ (成人)	「手足がしびれる」「手足の感覚がおかしい」「手足が麻痺している」「手足が動かない」など
25	首が痛い・肩が痛い (成人)	「首が痛い」「うなじが痛い」「首が回らない」「首・肩が非常にこる・張っている」など
26	アレルギー (成人・小児)	「アレルギーを起こしたことがあるものを『食べた・飲んだ・触れた・吸った』あとからおかしい」など
27	高血圧 (成人)	「血圧が高い」など
28	眼科関連 (成人・小児)	「眼」に関する訴え
29	鼻のけが・鼻血 (成人・小児)	「鼻」かつ「外傷・けが」を含む愁訴。「鼻を打った」「鼻血が出る」「鼻汁が出る」「鼻が痛い」「鼻（の周囲）が腫れている」「鼻（の周囲）が痛い」など
30	口の中や歯の問題 (成人・小児)	「あごが外れた」「口の中が痛い」「歯が痛い」「歯が折れた」「歯が抜けた」「歯が欠けた」「口、舌、唇、歯肉を切った」など
31	手や腕の問題 (成人・小児)	「腕・指・爪」が含まれる表現
32	足（太もものつけ根から足首）の問題 (成人・小児)	「足が腫れている」「足が変だ」「足がむくんでいる」「足が痛い」「足がつった」「足の色が変だ」など
33	足首から先の問題 (成人・小児)	「足が腫れている」「足が変だ」「足がむくんでいる」「足が痛い」「足の色が変だ」など
34	咬まれた・刺された (成人・小児)	「かまれた」「(トゲが) 刺さった」「(虫に) 刺された」「(ヒト、動物、ヘビ、海洋生物（クラゲなど）、昆虫（ハチなど）、ダニなど）

35	やけど (成人・小児)	「やけどした」「火事でけがした」「火事で煙を吸った」
36	頭のけが (成人)	「頭を打った」「頭にけがをした」「頭をぶつけた」など
37	眼のけが (成人・小児)	「眼にけがをした」など
38	胸やおなかをぶつけた・胸やおなかに刺さった (成人・小児)	「胸やおなかをぶつけた」「胸やおなかに…が刺さった」など
39	手足・顔面のけが (成人・小児)	「手足にけがをした」「手足が折れた」「顔をけがした」「打ち身」「打撲」など
40	何か固形物を飲み込んだ (成人・小児)	「何か固形物を飲み込んだ」「食べものなどが喉につかえた」「喉に引っかかっている・取れない」など
41	何か液体を飲んだ (成人・小児)	「何か液体を飲んだ」など
42	薬をたくさん飲んだ・間違った薬を飲んだ (成人・小児)	「薬をたくさん飲んだ」「(子どもが)薬を食べてしまった」「間違った薬を飲んだ」など
43	熱中症 (成人・小児)	「暑気あたり」「熱射病」「日射病」など
44	発熱 (小児)	「泣き止まない」「痛そうに泣いている」「いつもと泣き方が違う」など
45	けいれん (小児)	「ひきつけ」「泡を吹いている」「白眼をむいている」「ガタガタ震えている」など
46	せき (小児)	「咳が出る」「風邪をひいた」「むせているようだ」など
47	鼻水・鼻つまり (小児)	「鼻がつまっている」「鼻水が出ている」など
48	ぜんそく発作 (小児)	「喘息なんです…」「ゼーゼー、ヒューヒューしている」「息をするときに音がする」「呼吸が苦しそう」「息が荒い」「息苦しい」など
49	息が苦しい (小児)	「息が苦しい (苦しそうだ)」「呼吸が苦しい (苦しそうだ)」「息が荒い」「肩で呼吸している」「ヒューヒュー、ゼーゼーする」「息ができない」など
50	発疹 (小児)	「発疹」「皮膚のブツブツ」「湿疹」「蕁麻疹」「体がかゆそう」など
51	吐き気・吐いた (小児)	「吐いた」「吐いている」「吐きそう」「気持ちが悪そう」など
52	下痢 (小児)	「下痢している」「おなかを下している」「便 (ウンチ) がゆるい」など
53	腹痛 (小児)	「おなかが痛い」「おなかを痛がる」「おなかが張っている」「おなかをさわると痛がる・激しく泣く」など
54	便秘 (小児)	「便 (ウンチ) が出ない」「便意はある (ようだが)、どうしても便が出ない (一般的には 2 ～ 3 日以上)」など
55	便の色の異常 (小児)	「便に血が混じる」「赤い便が出た」「便が白い」
56	耳痛・耳だれ (小児)	「耳が痛い」「耳を痛がる」「耳だれが出ている」など
57	頭痛 (小児)	「頭が痛い」「頭が痛そう」「不機嫌」「泣きやまない」など
58	泣き止まない (小児)	「泣き止まない」「痛そうに泣いている」「いつもと泣き方が違う」など
59	頭のけが・首のけが (小児)	「頭をぶつけた」「落ちた」「頭から血が出た」など

緊急度（きんきゅうど）って？

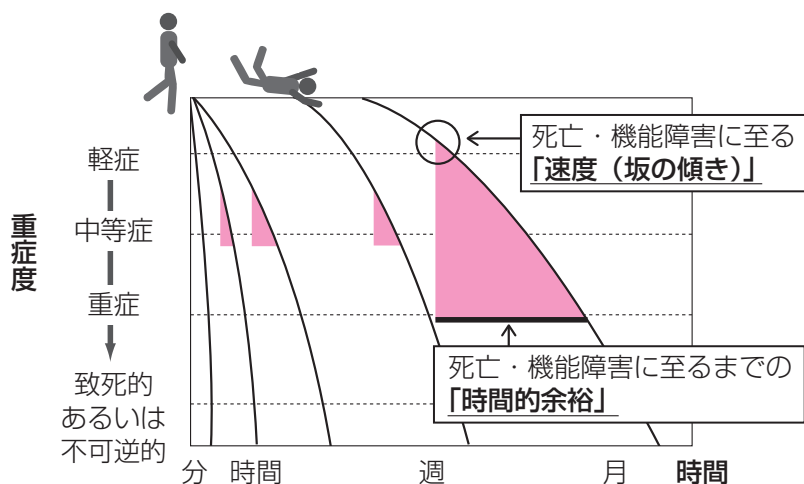
病気やけがのときに、「重症」とか「軽症」といったことばはよく耳にするとおもう。これらは「重症度（じゅうしょうど）」、つまり、病気やけがの重さの程度を表わしているものです。かかった病気やけがの程度が、どのくらい命や機能に影響を与えるかによって、重い、軽い、と判断されます。

それでは、緊急度（きんきゅうど）とは何を指すのでしょうか？ 緊急度とは、病気やけがが悪くなっていく（重症化していく）スピードです。病状の進み具合、と表現してもいいとおもう。つまり、「緊急度が高い」とは「重症化するまでの時間が短い」ことを意味します。例えば食べ物をのどにつまらせて窒息を起こした場合や突然の心停止の場合には、「分」単位で、まさに刻一刻と急激に重症化しますし、脳卒中ではもう少しゆっくりと（「時間」の単位で）、また種類によって異なりますがたいていの感染症の場合にはさらにゆっくりと（「日、週、月」の単位で）病状が進みます。このため病気やけがの種類により、すぐにお医者さんに見てもらったほうが良いか、しばらく待つことが出来るかが決まってきます。そこで、病気の症状が出た時やけがをした時点で、いつ受診するかについて判断する必要があるのです。

命に関わるような緊急度の高い疾患によっては、救急車を呼んで病院に連れて行ってもらう必要があります。救急車には救急隊員が乗っていて、病院に到着するまでに病気が悪化しないような一定の処置をしてくれます。現在、救急車の出動件数が増加しつつあり本当に救急車が必要な方が救急車を利用することが遅れる事態が懸念されています。誰でも命に関わる病気やけがをする可能性があることを考えると、救急車を適切に利用することがあなた自身の命を守ることに繋がります。救急車を適切なときにだけ利用するという、この大切な譲り合いをどうやったら実現できるのでしょうか？そのやり方の一つとして、この「救急受診ガイド」があります。

病気にかかったり、けがをしたりしたときには、緊急性の判断に迷うことも少なくないとおもう。そんなときに、この「救急受診ガイド」が市民のみなさんの緊急性の判断の助けになればとおもう。どうぞご活用ください。

緊急度の概念図



出典：日本臨床救急医学会雑誌 委員会報告

※上の図の曲線の坂の傾きが急であるほど、重症になるまでの時間が短い、つまり緊急度が高くなることを示しています。それぞれの病気やけがの種類によってこの曲線の傾きは異なります。加えて、年齢や持病がこの坂の傾きに関係することがあります。

共通に確認する項目

次の場合は、**救急車等で緊急受診**が必要です。

呼吸をしていない。息がない。
脈がない。心臓が止まっている。
水没している。冷たくなっている。

各症候プロトコルへ進む前に、以下の質問を確認してください。

Q1	(いつもどおり)ふつうにしゃべれていますか？	「はい」→Q2へ
	声は出せていますか？	「いいえ」→赤
Q2	ハアハアしますか(ハアハアしていますか)？	「はい」→「息が苦しい」へ
	息は苦しい(苦しう)ですか？	「いいえ」→Q3へ
Q3	顔色、唇、耳の色が悪いですか？	「はい」→赤
	冷や汗をかいていますか？	「いいえ」→Q4へ
Q4	しっかりと受け答えが出来ますか？	「はい」→各症状の項目へ
		「いいえ」→「意識がおかしい」へ

緊急度	定義
赤 (緊急)	・直ちに受診 が必要です。 ・今すぐ救急車等で病院に受診して下さい。
黄 (準緊急)	・受診が必要です。
緑 (低緊急)	・緊急ではありませんが、医療機関に受診して下さい。 ・夜間でししたら翌日の診察でもかまいません。
白 (非緊急)	・家庭での経過観察または通常診療時間内での受診を勧めます。

【家庭自己判断アルゴリズム】

